

## 指標と目標

サステナビリティ行動計画はオカムラグループのマテリアリティ（経営の重要課題）およびその他社会課題で構成されています。各課題について関係部門が達成度を測るKPIを設定し、年度目標を立てて取り組みを展開。サステナビリティ委員会・サステナビリティ推進プロジェクトなどの推進組織の中で取り組みの進捗についてモニタリングしています。

### サステナビリティ行動計画（重要課題）

自主評価の凡例 ☺=目標達成 ☹=一部未達 ☹☹=未達

分野	KPI	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	中長期目標	
人が活きる環境の創造	<b>モノ・コトづくりのクオリティの追求</b> <b>イノベーションの推進と新しい価値の創出</b> 7 8 9 12	中期経営計画2025 参照 2023年5月10日開示 中期経営計画2025 説明資料 <a href="https://ir.okamura.co.jp/library/managementplan/">https://ir.okamura.co.jp/library/managementplan/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業の成長を支える多様な働き方に応えるソリューションの提供</li> <li>● 小売業が抱える社会問題の解決とみらいの店づくりの研究・開発</li> <li>● スマート物流に貢献する製品・サービスの開発</li> <li>● 産業車両向けの環境対応型製品の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業成長を支える経営課題解決型需要が売上利益に寄与</li> <li>● みせいくらボを中心に店づくりの研究開発が進展 ☺</li> <li>● スマート物流に貢献する製品・サービスの開発は事業化の前段階まで進展</li> </ul>	2023年度目標継続	顧客・社会への新たな価値提供による「人が活きる社会の実現」
	<b>安全な製品・サービスの提供</b> 9 12	重大製品事故発生件数 *重大製品事故の定義：当社製品により、生命・身体に重大な被害を及ぼした事故、および製品以外の財産に火災等の重大な被害を及ぼした事故	0件	1件 ☹	0件	—
地球環境への取り組み	<b>サーキュラーエコノミーの推進</b> 3 6 7 9 12 13 14 15 17	省資源・廃棄物削減による資源循環の推進	生産系廃棄物等排出量 社内完成高あたり 前年度比 <b>1.0%</b> の原単位低減	原単位前年度比 <b>2.3%</b> 低減 ☺	生産系廃棄物等排出量 社内完成高あたり 前年度比 <b>1.0%</b> の原単位低減	2030年度生産系廃棄物の2020年度比 <b>9%</b> の排出量原単位低減
	<b>持続可能な自然資源の利用と保全</b> 6 12 13 14 15 17	製品開発における環境配慮型企画と設計推進	環境配慮販売製品の管理指標の設定と実態把握	管理指標を設定し月次で進捗状況を把握 ☹	環境配慮開発製品の管理指標の設定と実態把握	—
	森林資源の持続可能な利用の推進	木材利用方針に基づいた合法性の再確認	FSC維持審査で軽微な不適合 <b>1件</b> ☹	合法木材確認フローの構築	—	
	環境影響度の低減	水資源使用量 社内完成高あたり 前年度比 <b>1.0%</b> の原単位低減	原単位前年度比 <b>8.4%</b> 低減 ☺	水資源使用量 社内完成高あたり 前年度比 <b>1.0%</b> の原単位低減	2030年度 <b>10%</b> の水資源使用量削減（2020年度比）	

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています

サステナビリティ行動計画（重要課題およびその他の社会課題） ▶ P.154 ～ ▶ P.156

分野	KPI	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	中長期目標	
地球環境への取り組み	<b>気候変動問題への貢献とカーボンニュートラルの実現</b> 7 9 13 15 17	地球温暖化防止対策の推進 ● 温室効果ガス排出量低減 ● 燃料系エネルギー使用量低減	グループ全体でスコープ1+2排出量 2020年度比 <b>20%</b> 削減 ● 工業用燃料使用量 5年度平均1.0%低減 ● 車両用燃料使用量 5年度平均5.0%低減	CO <sub>2</sub> 排出量2020年度比 <b>30.8%</b> 削減で推移 ● 工業用燃料使用量 5年度平均1.1%低減 ● 車両用燃料使用量 5年度平均15.3%低減	グループ全体でスコープ1+2排出量 2020年度比 <b>36%</b> 削減 ● 工業用燃料使用量 5年度平均1.0%低減 ● 車両用燃料使用量 5年度平均5.0%低減	2030年度温室効果ガス排出量 <b>50%</b> 削減(2020年度比)、 2050年カーボンニュートラルを目指す
	エネルギー生産性向上	省エネ法対応によるエネルギーの効率利用 ● 生産系エネルギー消費原単位 社内完成高あたり前年度比 <b>1.1%</b> 低減 ● 事務所系エネルギー消費原単位 総人員あたりのエネルギー消費原単位維持	● 生産系エネルギー消費原単位 前年度比 <b>4.0%</b> 低減 ● 事務所系エネルギー消費原単位 前年度比 <b>2.1%</b> 低減	省エネ法対応によるエネルギーの効率利用 ● 生産系エネルギー消費原単位 社内完成高あたり前年度比 <b>1.1%</b> 低減 ● 事務所系エネルギー消費原単位 総人員あたりのエネルギー消費原単位維持	2030年度エネルギー生産性向上 <b>10%</b> (2020年度比)	
従業員の働きがいの追求※	<b>Work in Life (ワークインライフ) の推進</b> 3 8	従業員満足・エンゲージメントの向上	● エンゲージメントスコア向上 ● 重点改善項目の設定	● エンゲージメントスコア「Bレーティング」達成 ● 重点改善項目の設定、改善施策の実施	● エンゲージメントスコア向上 ● 重点改善項目の設定 ● 改善施策の実施 ● Dレーティング組織の改善	2025年度までに「Bレーティング」達成
	<b>DE&amp;I (ダイバーシティ・エグイティ&amp;インクルージョン) の推進</b> 5 8 10	女性従業員比率	<b>23%</b>	<b>22.7%</b>	<b>23%</b>	—
		女性管理職比率	<b>7%</b>	<b>7.3%</b>	<b>7.5%</b>	—
		新卒女性採用比率(大卒)	<b>40~50%</b>	<b>41.9%</b>	達成済みのため、2025年度より目標管理せず	—
		男性育休取得率	<b>65%</b>	<b>69.2%</b>	<b>70%</b>	—
		(男性育休+配偶者出産休暇)取得率	<b>100%</b>	<b>101.9%</b>	<b>100%</b>	—
	障がい者雇用率	<b>2.58%</b>	<b>2.32%</b> (2025年6月1日時点)	<b>2.5%</b>	2025年度 <b>2.7%</b>	
<b>キャリア形成支援と専門人材育成の強化</b> 4 8	育成面談実施率	<b>100%</b>	<b>97%</b>	<b>100%</b>	—	
	強みにつながる専門職への各種施策の実施	各事業本部の戦略に沿った専門人材育成のプログラム企画運営	● DXラーニングプラットフォームの実施 ● 施工管理技士の講習実施 ● デザイン思考習得のためのオカムラシンキングの開催 ● 必要資格の抽出	継続して各事業本部の戦略に沿った専門人材の育成プログラムの企画運営	—	
	オカムラ ユニバーシティ受講アンケート「今後のキャリアに活かせる」	受講者の <b>95%</b> が今後のキャリアに活かせると回答	受講者の <b>92.2%</b> が今後のキャリアに活かせると回答	受講者の <b>95%</b> が今後のキャリアに活かせると回答	—	

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています ※対象範囲：オカムラ単体

サステナビリティ行動計画(重要課題およびその他の社会課題) ▶ P.154 ~ ▶ P.156

分野	KPI	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	中長期目標	
責任ある企業活動	公正・透明・誠実な行動 5 8 10 16 17	サステナブル調達調査 実施率	取引金額ベースで <b>70%</b>	取引金額ベースで <b>70%</b> 以上達成 調査対象639社 回収率 <b>98.9%</b> 	取引金額ベースで <b>70%</b> 以上達成	—
		サステナブル調達 実地監査 実施率	ハイリスクサプライヤーに対して <b>100%</b>	ハイリスクサプライヤーに 対して <b>100%</b> 実地監査 <b>5社</b> 	ハイリスクサプライヤーに対して <b>100%</b>	—
		人権教育（社内）の実施と充実、 サステナブル調達との相乗効果	購買関連部門へ教育継続	継続実施 	購買関連部門へ教育継続	—
		入社時および新任役職者向けコン プライアンス教育実施率	<b>100%</b>	<b>100%</b> 	<b>100%</b>	—
		コンプライアンス研修の充実	コンプライアンス研修の充実	● 全社コンプライアンス研修 （4回/年）実施  ● その他課題別研修の実施	● 全社コンプライアンス研修（3回/年） 実施 ● その他課題別研修の実施	—
	リスクマネジメントの強化 10 11 16	BCP（災害）構築	● 災害対応マニュアルの見直し ● BCP（災害）構築 	● 災害対応マニュアルの見直し ● BCPの広報・周知	—	
	適正な情報開示と ステークホルダーとの対話 16 17	ステークホルダーとの対話継続と 取り組みへの反映	ESG関連各外部有識者とのステークホル ダーダイアログ実施	継続実施 	● ESG関連各外部有識者とのステーク ホルダーダイアログ実施 ● 投資家との創造的対話	—

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています

サステナビリティ行動計画（重要課題およびその他の社会課題）▶ P.154 ～ ▶ P.156

## 2024年度の活動総括

オカムラグループは2019年度からサステナビリティ行動計画の前身となる「CSR行動計画」を策定。2020年度からは各課題に対するKPIと年度目標を設定し、取り組みを展開してきました。2023年度にはマテリアリティ（経営の重要課題）の見直しに合わせて、サステナビリティ行動計画の見直しを行いました。

2024年度は各計画のもと、取り組みを推進し、一部目標未達の項目もあるものの、全体としては目標達成が多くを占め、良い結果となりました。